

# RPJ News

2020年 2月号

特定非営利活動法人(NPO法人)  
精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project  
〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801  
毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp  
発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守  
連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

## 内 容

### \* はじめに

実行委員 エスポアール出雲クリニック 高尾 由美子

### \* “ふあっと”のこれからへ思うこと

エスポアール出雲クリニック 形部 周平

### \* ふあっと「心 COLOR 学会」運営を経験して

～試されているのは自分自身?～

ファーマシー薬局出雲中央 寶大寺 淳

### \* 事務局からのお知らせ

- 2020年度 役員会・実行委員会・総会開催延期の件
- 2020年度 協会会費のお願い

### \* はじめに

実行委員 エスポアール出雲クリニック 高尾 由美子

2月は出雲が担当です。テーマは「世代交代」としました。ちょうど2月23日には「出雲の精神保健と精神障害者の福祉を支援する会ふあっと」の若手広報部主催「心 COLOR 学会」がありました。シンポジウム「精神障害者の緊急時の対応について」ということで、5人のシンポジストが話されました。頼もしく感じられる学会でした。詳細は、形部さん、寶大寺さんが報告してくれます。

### \* “ふあっと”のこれからへ思うこと

エスポアール出雲クリニック 形部 周平

今日の“出雲の”医療・福祉・行政の顔の見える関係づくりの地盤を築いた『出雲の精神保健と精神障害者の福祉を支援する会ふあっと』(以下、“ふあっと”)も今大きな過渡期の中を様々な葛藤をしながら進んでいる。同じようにして当院もまた大きな過渡期の中にいる。“ふあっと”の輪の中で当院のアットホームな風土を作られ、その人の生活に直結した型にとらわれない生活支援の在り方を我々後輩へ説いて下さった先輩 PSW が今年度末に退職されることになったのである。その現実に立ち向かわなければならないが、心の奥底にある不安がそのことを受け入れられず、こういう風に筆を走らせてみてもまだ実感が湧いてこない。しかし、全国各地の様々な団体でも職場でも、所謂“世代交代”の波は待たないで押し寄せているのだろう。そう思うだけで自分だけじゃないと微かにホッとしたり、山陰の冬のような曇り空が心の中に広がって、つかの間、同世代との繋がりに希望を感じて陽が差し込んでみたり。何とも不安定な心持ちであるが、それでも“一人じゃない”と前向きにこの過渡期へ挑んでいこうと思う。

“ふあっと”は今年で 33 年目を迎えた任意の団体であるが、創設期に関わられた“レジェンドたち”は、また一人、また一人と想いを託して、期待を寄せて、少しずつ距離を置いていかれた。冒頭で述べたように“ふあっと”の世代交代は進んでいるのだと思う。“ふあっと”の運営(例会の企画、普及啓発活動、事務局など)は若手中心のグループ(“ふあっと”広報部)へ移行され、毎月、例会の他に会議や事例検討などを行っているが、参加者が段々と少なくなっている現状があり運営に課題を抱えている。我々広報部はまだ『“ふあっと”は何たるか』を分かっているようで分かっていないのかもしれない。今年度でいえば、例会に 10 人程度の参加しかない時がその警鐘を鳴らしていた。

しかし、そんな中でも広報部が企画している『心 COLOR 学会』が 2 月 23 日(日・祝)に開催され、そこには 3 連休の中日であるが 40 名近い参加があった。自分はその広報部に属していて、この『心 COLOR 学会』の企画担当をした。今年で 7 回目となるが、今回は【精神障がい者の暮らしを支える～緊急時の対応～】をテーマに、出雲市消防本部の救急救命センター長、県立こころの医療センター副院長などをシンポジストにお迎えし、訪問看護ステーション、相談支援事業所、薬局薬剤師などの支援者と日ごろの現状を踏まえた意見交換を行った。その後は、参加者も含めたワールドカフェ(グループディスカッションの手法の一つ)を行い、色々な職種や立場から積極的な情報交換があり顔を繋ぐ場になったのではないと思う。ちなみに、出雲警察署にも参加を呼び掛けたが、業務上の都合で参加していただけなかったことは残念であった。それでも“ふあっと”の意志を直接会ってお話できたことは大きな成果であったし、次への手がかりになったのではないだろうか。そもそも警察や消防をこのインフォーマルな会にお呼びできるのだろうかとの不安はあったが、その発想を与えてくださったのは今年度から広報部の一員に新たに加わってくださった薬局薬剤師の寶大寺さんである。(本誌にも寄稿されていて、本協会のイタリアセミナーにも参加された)

そうして考えていくと、やはり人と人との繋がりとは“ふあっと”そのものだった。“ふあっと”が活動を続けてきたからこそ、志を持った人同士が出会い、また、新たな出会いへと繋がっていくのだ。“ふあっと”へ誘ってくださった当院の先輩 PSW には感謝の気持ちでいっぱいであるが、自分も同じようにして後輩に繋いでいかなければならないと思う。

最後に当院の高橋幸男院長は 1 月の RPJNews でも生涯現役を宣言された。つまり“ふあっと”の導き手としてもまだまだご指導いただけるということだと勝手に理解しているが、ホッと胸をなでおろした瞬間もあった。

## \* ふあっと「心 COLOR 学会」運営を経験して

～試されているのは自分自身?～

ファーマシー薬局出雲中央 寶大寺 淳

心 COLOR 学会について:

2019 年 5 月にイタリア研修に参加したあと、私は出雲の精神保健の状況を勉強しなそうと思い、いろ



心 COLOR 学会



シンポジストの皆様

いと調べていたのですが、そうこうしているとタイミング良く Relisa の東さんが出雲の精神障害について講演する研修会があることを知りました。もちろん早速出かけていき、研修会終了後には東さんに名刺を渡してあいさつをすることができました。精神保健に興味を持つ薬剤師が少ないためか、東さんは怪訝な顔をしていましたが出雲にふあつという会があり、会員を募集していることを教えてくださいました。イタリア研修での経験や精神保健福祉交流促進協会とエスポアール出雲クリニックさんとの縁もあって顔がつながり、私はふあつとの広報部に入ることとなりました。広報部というものがどういうものなのか、そもそもふあつとという団体自体がどういうものなのか全容を把握しきれないまま毎月の例会とふあつとの部会に参加していると、あれよあれよという間に冒頭の心 COLOR 学会というイベントを担当することになり、小規模ながらも学会の企画・運営をすることになりました。

例年、心 COLOR 学会は精神保健福祉に関わる各職種の若手が学会発表する練習、または自分の日々の業務を発表し、先輩方にアドバイスをいただきながら自分の仕事内容を見つめなおす機会としていたようですが、いろいろと企画を考えていくうちに、試しに消防や警察の方々を呼んで日々の業務で精神障害の当事者の方にどのように関わっているのかを話していただく会にしてみるのはいかがでしょうかと提案してみました。試しに呼んでみようと言ってみたのは良いものの、題名に記載したように試されているのは自分自身で、具体的にどんな内容をどのような形式で話していただくのか、座学形式か、シンポジウム形式か。募集人数は、どのような職種に声をかけるのか、チラシはどうするか、グループディスカッションもやってみるか、ファシリテーターは、テーブルホストは、花は、ドリンクは、などなど。各種研修会に参加したことはありますが、企画運営をすることは初めてでわからないことばかりでした。それでも手探りの中を突き進み諸先輩方にアドバイスをいただきながら、去る2月23日になんとか開催にこぎつけることができました。シンポジウムからのグループディスカッションという流れで開催し、内容的にも参加者の方からは勉強になったと概ね好評だったようで一安心しました。

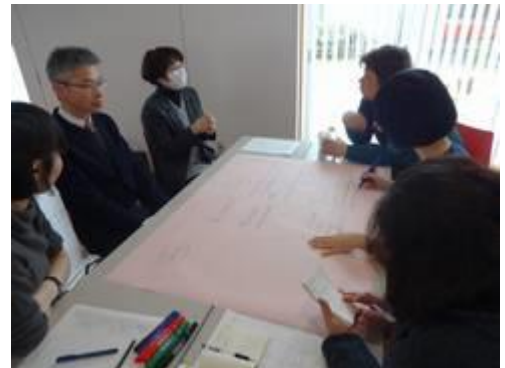
私自身としても今まで知ることがなかった他の職種の日々の業務を学ぶことができ、大変有意義な時間になりました。どの職種も患者さんの情報を必要としていて、単独で対応するよりも包括的に支えることが有益であることを各々が認識していることを確認できました。顔の見える関係になることが、切れ目のない、スムーズな支援をする上で重要であると分かったので今後も外部の方をお招きしてお互いに勉強するような会を企画していけたらと思いました。

薬局薬剤師の職能について：

実はシンポジウムでシンポジストも経験しました。警察の方が最終的に竹島の日警備の関係で参加できないことが決まった時に、薬剤師の話聞いてみたいと言ってくくださる方がいたのでシンポジストとして登壇することになりました。

薬剤師としての率直な感想として、薬剤師は地域の精神保健福祉の面でまだまだ活用されていないと思いました。

薬局業界は厚生労働省が描いた薬局ビジョンに沿って、門前からかかりつけ、そして地域へと薬局の関



ワールドカフェ(グループディスカッション)

わりを増やしていくように舵が切られています。それに伴い薬局業界は医薬分業開始後最大の転換期を迎えているわけですが、最大の転換期と言っているにも関わらず、地域の方々は薬局にどのような機能があるのか、どういうことをしてくれるのか、今後どうなっていくのかを理解しておらず、相変わらず、薬剤師は薬局で薬をくれる人という認識のみでとまってしまっているのかなと感じました。ふあっとに関わるような医療・福祉関係の知識がある方々でさえこの状態でしたので、一般市民の方はなおさらでしょう。他の人が悪いと言いたいのではなく、これはひとえに「薬局のアピール不足」、これに尽きるかと思います。病院やクリニックの前に存在していれば自動的に患者さんが利用してくれるという立地に依存した業態を続けてきた結果、本来あるべき薬局の活用方法を提案できていなかった。例えば、夜間、休日の薬の相談を受けることについて困っている職種がおられました。薬局には地域支援体制加算やかかりつけ薬剤師の制度というものが、これに対応している薬局は24時間電話相談を受け付ける機能を果たす必要があります。こういう制度がうまく利用されれば解決できる可能性があるのですが、地域の人に周知されておらず、薬局の発信力に課題を感じるに至りました。

いくつか薬局業界、薬剤師へ悲観的なことを書きましたが、逆に可能性を感じる部分もあります。そもそも今までほとんど活用されていなかったわけですから、薬局薬剤師は精神保健の領域にとって、ただただプラスの存在になりえます。専門職として主体的に関わりを持ち、患者さんや他職種から必要とされる存在になれるように今後がんばっていきたいと思います。特に出雲は地域柄として、連携が進んでいると思いますのでふあっと広報部の活動含め、しっかり関わっていきたいと思います。

最後になりましたが、シンポジウムの運営にご協力いただいた皆様にはこの場を借りて感謝申し上げます。



#### \* 事務局からのお知らせ

- 2020年度 役員会・実行委員会・総会開催延期の件  
4月5日開催を予定しておりました上記会議ですが、昨今の環境を考慮し、開催を延期することとしました。  
今後の予定に関しましては決まり次第発表させていただきますので、ご理解のほど宜しくお願いします。
- 2020年度 協会会費のお願い  
協会は皆様の会費で運営しております。是非本年度もご協力いただけますよう宜しくお願い申し上げます。  
近日中に会費振込書をお送りさせていただきます。

#### ー編集後記ー

私は、今年度で退職します。二人の報告にあったように、新しい視点での関わり、薬剤師の寶大寺さんは、当院のクリニックデイケアで服薬指導もしていただいています。色々な意味で新しい出雲、ふあっとが中心となって世代交代していくと思います。私は、精神保健福祉交流促進協会を通してリフレッシュセミナーにもあちこちに行かせていただきました。海外研修はヴィレッジだけでしたが、御荘には何度行かせてもらったことでしょうか、尾道、大分、静岡、北海道・・・多くの方との出会いをいただき、多くの刺激をもらいました。人が繋がることでたくさん元気をもらっていました。皆さんに感謝する次第です。言葉では表現できないほど事務局の仁木ご夫婦にも支えていただきました。これからは自分の終活に時間を注ぎたいと思います。長い間お世話になりました。紙面を通してお礼を申し上げます。(高尾由美子)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119